

2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	基礎構造の限界状態設計法小委員会		主 査 名：小林勝已 就任年月：2003 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 基礎構造運営委員会		委員長名：和田 章 主 査 名：時松 孝次
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2007 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>「基礎構造の限界状態設計法」の確立に必要な、基礎データの収集と分析、設計手法の検討と検証を行い、次期「基礎構造設計指針」改定に反映する。</p> <p>2003 年度：設計定数の統計資料、載荷試験利用方法に関する知見の収集</p> <p>2004 年度：収集した知見の分析と方向性の検討</p> <p>2005 年度：従来設計法とのキャリブレーション</p> <p>2006 年度：論文発表、報告書作成</p>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	小林勝已(フジタ) 小椋仁志(ジャパンパイル) 鈴木康嗣(鹿島建設) 安達俊夫(日本大学) 梅野 岳(久米設計) 桑原 文夫(日本工大) 小林 治男(大成建設) 篠崎洋三(大成建設) 西山高士(大林組) 鈴木 誠(清水建設) 椿原康則(竹中工務店) 永田 誠(新日本製鐵) 田中久丸(東京ソイルリサーチ) 本城勇介(岐阜大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>1. 地盤パラメーターWG (地盤のばらつきを考慮した設計の検討)</p> <p>2. 杭の載荷試験 WG (載荷試験とボーリングデータを用いた安全係数の設定)</p>		
2005 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価	
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)	
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 荷重指針「土圧・水圧」の章	
講習会		
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 2004 年大会基礎構造 P D (資料名)「地震時土圧をどう考えるか」</p> <p>2. ERTC10 ワークショップ(アイルランド) (資料名)設計例題(2 題)</p>	<p>参加者数 250 名</p> <p>参加者数 60 名</p>
大会研究集会	1. 2005 年大会 (ポスターセッション) (資料名)複数本のボーリングデータから設計用限界支持力を算定する方法について 限界状態設計法による鉛直力に対する杭の設計事例	参加者数 200 名
対外的意見表明・パブリックコメント等		
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 設計定数の統計資料の収集 (90%)</p> <p>2. 信頼性理論に基づく設計手法の検討 (80%)</p> <p>3. 地盤パラメーター及び杭の載荷試験の利用方法の分析 (85%)</p> <p>4. 地盤のばらつきを考慮した試設計 (50%)</p>	
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 基礎構造に適用できる信頼性理論の検討</p> <p>2. 実務で利用可能な設計法の検討</p> <p>3. 基礎構造設計指針の改定に反映するデータの収集</p>	